

令和2年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表

○ 教育方針	①真理と正義を求め、一意学問に精進する態度を養う。 ②すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気概を振起する。 ③正しい判断力を育て、自主・自律の生活態度を確立する。 ④部活動を奨励し、明るく、たくましい心身を培う。 ⑤豊かな情操と強い連帯感を養い、奉仕する心を育てる。	《評価の基準》 4：十分達成できている (目標の8割以上が達成できている) 3：おおむね達成できている (目標の6割以上が達成できている) 2：どちらかという達成できていない (目標の3割以上が達成できている) 1：ほとんど達成できていない (目標の1割以下しか達成できていない)
○ 努力目標	①学校運営の充実 ②生徒指導等の充実 ③教科指導等の充実 ④保健・環境美化等の充実	
○ 今年度の重点課題	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④部活動等の充実 ⑤心の教育の充実 ⑥スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の充実	
		評価…上段R2年度、中段R1年度、下段H30年度

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	成 果 と 課 題
------	------	-----	-----------	-----	-----------

1 学校運営 全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価

(1) 重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日の教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。 ②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。 ③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.5 3.4 3.4 3.4 3.2 3.2 3.3	・重点課題の設定と重点課題を踏まえた分掌・学年運営については、例年同様高い評価を得ている。 ・保護者や地域への説明機会の設定については、HPやメールメイトを活用したデジタル化を進めたい。
(2) 学年経営	学年目標の具現化	[1学年] 「自己探究」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導を充実させる ②規律ある生活習慣を確立させる ③進路指導を充実させる	①学級活動・部活動・学校行事をとおして人間性の陶冶を図る。	3.4	・面談は定期・不定期でできる限り実施した。 ・家庭学習時間を増加させるための粘り強い働きかけが必要である。 中堅学年として生徒会や部活動等で活躍の場をもらい、成長の様子がみられるようになった。SSHや新聞意見文を通して視野を広げ表現力も育ちつつある。ただ、主体的な学習については全体的にまだまだ課題がある。進路実現に向けて励ませたい。
			②面談をとおして生徒理解を図り、相互の信頼関係の下で指導及び支援を図る。	3.5	
			③進路学習やSSH活動、体験活動をとおして視野を広げ、主体的に学ぶ姿勢を育てる。	3.3	
		[2学年] 「深山の桜のように ~志と怒の心を育む~」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導を充実させる。 ②自律した生活習慣を確立させる。 ③進路指導を充実させる。	①部活動や行事、挨拶・掃除、体験活動を通して豊かな情操と思いやりの心を育てる。	3.4	
			②面談・声かけ・観察で生徒理解を図り、個に応じて基本的な生活や学習習慣、社会性を身に付けさせる。	3.4	
			③グローバルな視点(SDGs)も取り入れてSSH活動や時事意見文、修学旅行と進路学習を連動させ、視野を広げ、進路意識を高めさせる。	3.5	
		[3学年] 「夢拓け! 58回生の大舞台」を学年スローガンに ① 豊かな感性を育む指導を充実させる。 ② 生徒指導および生徒支援の充実 自己実現に向けて最後まで諦めない進路指導の充実	①部活動・学校行事・学習・掃除・挨拶による人間力の陶冶	3.7	
			②教員と生徒の信頼関係を築いた上で、先を見て行動する姿勢と社会に通用する生徒の育成	3.7	
			③自己肯定感を高める指導、面談を通して、生徒自らが進路希望を主体的に開拓できる進路指導	3.8	

2 教育活動 教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価

(1) 教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	3.2 3.3 3.3	SSHやキャリア特進コースの特徴を生かした教育課程を編成する。
-------------	---------------------	-----------------------	---	-------------------	---------------------------------

(2) 学習・進路指導の編成

①教科・進路指導		国語科 学習指導の充実と国語力の向上に努める。	①授業担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。	3.8	授業や考査を通して思考力・読解力の育成を目指すとともに、新課程に向けた指導のあり方を研究していく。
		②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.5		
		③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.3		
		地歴・公民科 個々の生徒に対応した学習指導の充実と学力向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高めるように工夫する。	3.5	・教科間の連携がしっかりとれている。 ・情報交換、教材の共有を密にすることができた。
		②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題を提供し、確実に仕上げるまで指導する。	3.3		
		③主要な模擬試験等に数値目標を掲げ、目標達成にむけて教科をあげて取り組む。	3.3		
		数学科 学習指導の充実と授業力の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。	4.0	・教師間で連携を取りながら指導に取り組めた。 ・個別の継続的な指導が十分ではなかった。
		②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.2		
		③主要な模試について数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.4		
		理科 学習指導の充実と進路実績の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど授業の質を高める工夫を行う。	3.7	・今後のタブレット導入に向けICT活用を推す。 ・計画的な課題の提示に加え、学習の積み上げ指導が必要である。 ・課題研究により、研究調査に関心が高まった。 ・STレや環境などは、計画的に改善できている。
			②計画的に課題を与え、処理は迅速にし、確実に仕上げるまで指導する。	3.3	
			③主要な模試等について数値目標を掲げ、実現に向け組織的に取り組む。	3.4	
			④生徒の実情にあったSTレⅠ、Ⅱ、Ⅲや課題研究と総合環境科学の指導を通し、生徒の科学的見地を高める。	3.9	
		英語科 学習指導の充実に努める。実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど、授業の質を高める工夫を行う。	3.4	・十分な連携が取れている。[①] ・ICTを活用して、シャドウイングなどの様々な実践に取り組んでいる。[①] ・学力中下位層の生徒への手立てが必要である。[②] ・3年間を通しての英語力向上のための継続的かつ体系的な指導シラバスを作成し、対外テストごとに期分けをして、達成度を評価していくシステムを確立させたい。[③] ・コロナ禍によりコミュニケーション活動の実施が難しい。[④] ・コミュニケーション能力の育成と入試での得点力を上げることの両立は、現時間数では難しい。[③・④]
			②計画的かつ継続的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.3	
			③主要な対外テストについて数値目標を掲げ、その達成に向けて授業担当者間の協働により取り組む。	3.4	
			④コミュニケーション英語、英語表現の授業およびSSHトレーニングにおいて、実践的コミュニケーション能力を育成する。	3.4	
		保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし授業の質や緊張感を高める工夫を行う。	3.9	コロナ対策として、生徒間の間隔や行動に不安を抱えながら対応したが、振り返ると、改善点があったように思う。
②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。	3.7				
③ 受験（体育系）指導の充実。	3.4				
芸術科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組ませ専門的に一定程度以上の能力を持たせる。	3.0	コロナ対策をしながらも、例年とカリキュラムを大きく変更することなく実施することができた。		
	②決められた期間内に課題(歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成)ができるようにする。	3.0			
家庭科 学習指導の充実と実生活への活用に努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。	3.0	乳幼児ふれあい体感を中止したが、調理実習を一人調理形式に変え、長期休業中に各家庭のみそ汁を実習報告させるなど内容を変更し、コロナ感染症対策を行		
	②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。	3.0			

			③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。	3.0	った。被服制作は消費、環境問題と関連させてエコバックの制作を行った。
			④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。	3.0	
			⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	4.0	
		情報科 情報に関する知識の習得と、情報技術・情報モラルの定着に努める	① 座学と実習を効果的に編成する	4.0	情報における科学的な考え方の習得を目標に、理論と実証を座学と実習で行った。プログラミングによるアルゴリズムの理解習得は十分とは言えないが、基本的な考え方と技能は概ね習得させられたと考える。
			②知識の習得(デジタルの知識・アルゴリズムの理解習得・問題のモデル化とシミュレーションの学習、情報モラルマナーの理解定着)	3.0	
			③技能の習得(コンピュータの基本的操作方法の学習)	3.0	
②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の支援に努める	生徒会活動や、文化祭・体育祭など諸行事で、生徒が自主的に活動し、リーダーとなる人材を育成する	3.5 3.6 3.4	コロナ禍の制限の中、よくやっていた。
(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な推進と事業内容の充実	①SSH事業の円滑な運営	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める	3.5 3.5 3.6	事業計画に従い、年次進行で内容の改善を図っている。事業前後の生徒の変容を正しく評価して一層の充実を図りたい。また保護者や地域、他校に対しての情報発信や研究成果普及については、HPを中心にして効率よく正確な発信を目指したい。
		②研究開発の推進	②SSH事業2期目の目的に照らしたカリキュラムの研究開発を推進する	3.5 3.5 3.5	
		③研究成果の普及活動の充実	③SSHの活動や成果を学校のHPを介して保護者や中学校への情報発信に努める	3.5 3.3 3.6	
(4)生徒指導	品位ある南高生の育成と安全な教育環境の充実	①元気のよいあいさつとその場にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心を身につけている	①・登校時の挨拶指導の実施 ・学校生活における基本マナーの周知徹底(掲示)	3.3 3.0 3.4	・先生方のご指導の下、生徒は全体的にルールを守っている。 ・掃除は、まだやらされている生徒が少数いるので、改善したい。 ・机ロッカーの整理ができているクラスとまだ不十分なクラスがあるようだ。働きかけを行いたい。 ・2分前着席は先生方のお陰で大分できてきた。 ・全校生徒に働きかける場が減っているため、生徒指導便りで上手に生徒と保護者に伝える必要性を感じた。
			②・職員監督の下、掃除の徹底 ・机・ロッカーの整頓 ・貴重品の管理	3.1 2.9 3.0	
			③・違反についてはその場で指導 ・容儀検査の実施と事後指導徹底	3.1 3.0 3.1	
			④・授業開始2分前着席と集会時の5分前集合 ・下校時刻の遵守徹底	2.9 2.7 3.3	
			⑤・バスマナー指導 ・生徒理解に努め、自己有用感を高める指導を心がけ、人と関わる力の土台をつくる(生徒指導研修会の実施等) ・携帯端末使用ルールの遵守徹底	3.1 3.2 3.4	
			(全般) ・毎月生徒指導便りを発行し、保護者と情報の共有化を図る ・生徒会、生徒支援部との連携	3.4 3.4 3.6	
(5)健康・安全指導	健康や安全に対する意識や態度の育成	本校の教育方針や重点項目にそって、健康・安全指導の充実に努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保持・増進を図らせる。	3.1 3.0 3.1	今年度、「午睡」など、睡眠教育を進める予定であったが、新型コロナ等で中途半端に終わってしまった。
			②教育活動時の安全保持に努める。また、安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神を高める。	3.3 3.3 3.4	
(6)心の教育	他者を思いやる心や命を大切にしている態度の育成	教育活動全体の中で心の教育の充実に努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の連携をさらに密にする。	3.5 3.5 3.4	年度途中からのSC派遣により、多くの生徒が救われると共に、我々の負担も激減した。次年度も何とか派遣をお願いしたい。
			②スクールカウンセラーや外部機関等を積極的に活用し、予防に重点を置いた教育相談体制の充実に努める。	3.5 3.3 3.3	
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全員部活制を生か	部活動の練習環境を充実させるとと	3.2	練習時間・下校時間の遵

		し、個々の生徒の活動の継続に努める。	もに、練習時間と学校下校時間を遵守させ、「学習と部活動を両立」させる。	3.0 3.1	守は不徹底。
3 教育環境 学校の置かれている教育環境に関わる教育成果の評価					
(1)施設・設備の管理	施設・設備の適切な管理に努め、維持補修、改修工事を計画的に実施する。	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止に努める。 ②施設の維持補修及び改修工事を計画的に実施する。	3.4 3.4 3.2 3.4 3.3 3.4	施設・設備の不具合等についてすぐに連絡していただき助かっています。引き続き早急に対応をしていきたい。
(2)情報化推進 *情報担当職員	教育活動のIT化	IT関連の施設・設備の充実と教育活動分野への活用促進に努める。	①・情報機器等の充実した整備を行う ・校内LANの生徒への活用を推進する ②校務処理の効率化と職員のICT活用能力の向上に努める。	3.1 2.9 3.0 3.2 3.0 3.2	今年度は校務用、教育用PCの更新を行うことができなかった。次年度は、タブレットと新生徒用無線LANの活用が課題になる。 NEWSポータルサイトを活用してアンケートや紙資料の軽減に努めた。
(1)保護者との連携	PTA活動の充実	PTA総会の盛会とPTA活動の活性化に努め、学校と家庭間の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つための情報発信をこまめに行う。 ②PTA総会の内容の工夫を行うなどで、出席率を向上させる。	3.3 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1	PTA活動のほとんどが実施できなかったことで、次年度活動が円滑に行えるか不安を残す結果となった反面、HPやメールによる情報発信はこまめに行った。
(2)地域や関係機関との連携	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用して、教育効果を高める。	3.2 3.2 3.3	今年度はコロナで実施が見送られたが、60周年の次年度は記念行事の開催と併せ、講演会等を実施できるよう同窓会と協力していきたい。
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気魄と情熱に燃える生徒の育成 ・親和と友愛に充ち、礼節を重んじる生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に、他者を思いやる心や奉仕する心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボランティア活動に積極的に取り組ませる。 ②生徒会専門委員会や執行部の活動として、あいさつ運動やバスマナー指導を行い、品性のある生徒を育成する。	3.2 3.0 3.0 3.2 3.1 3.2	①教員の働きかけがあると取り組むが、主体的には活動できていない。 ②教員からではなく、生徒からもっと発信させたい
(2)学力の向上	・真理と正義を求め、一意学道に精進する態度を養う。 ・すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気魄を振起す。	・入学後の導入をスムーズにし、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探索し、授業の質の向上を目指す。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校生活へのスムーズな移行を実現し、基礎学力の向上を図る ②公開授業や研究授業を実施して教員の指導力向上を図る。 ③進路実現100%を目指す	3.1 3.0 3.2 3.4 3.3 3.5 3.0 3.5	①③最低限度の家庭学習時間を確保していくためにも、国英数の3教科については、「3年間を見通した学習計画」を提示していきたい。進捗と到達度を可視化していく。 ②行事が精選される中でも予定通り実施できたことに感謝したい。次年度はタブレット導入にあたりICT活用授業で提案できないか等検討していく。
(3)健康や体力	健康で明朗、品位ある生徒の育成		①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加することを通して、明るく、たくましい心身を培う。 ②行動体力を高めるとともに、防衛体力をつけ、病気やケガに強い身体作りを行う。	3.2 3.3 3.2 3.1 3.1 3.1	部活動、体育授業において、けがをする生徒が見られた。そこを踏まえた指導を考えていかなければならない。